

第3章

企業団の基本理念

企業団の基本理念 …… 12

～ 基本理念 ～

安全・強靱・持続のもとに 地域を支える 広域水道

千葉県北西部地域は、河川からの原水の確保に関して共同事業の経済性や河川管理上の問題などから、関係市町が個々に水道施設を建設、維持管理するには、投資効率が悪く多額の費用を要することから、これら事業を合理的かつ経済的に運営するため、広域的に一元化する一部事務組合として、企業団が設立されました。企業団の役割は、各家庭に給水している構成団体の受水槽に24時間365日、安全で良質な水道用水を安定的に供給し続けることであり、地域のライフラインを支える組織としての責務といえます。

企業団の水道施設は、全国でも有数な施設規模を有していますが、取水施設、浄水施設、送水施設の大部分が代替のない単一施設であり、維持管理などは効率的である反面、多様な災害リスク等への潜在的な脆弱性を抱えています。こうした状況に鑑み、企業団では送水管路のループ化や調整池の設置によるバックアップ機能の強化のほか、停電対策としての自家用発電設備の能力増強など、限りある財源のなかで実効的な手段を講じてきました。

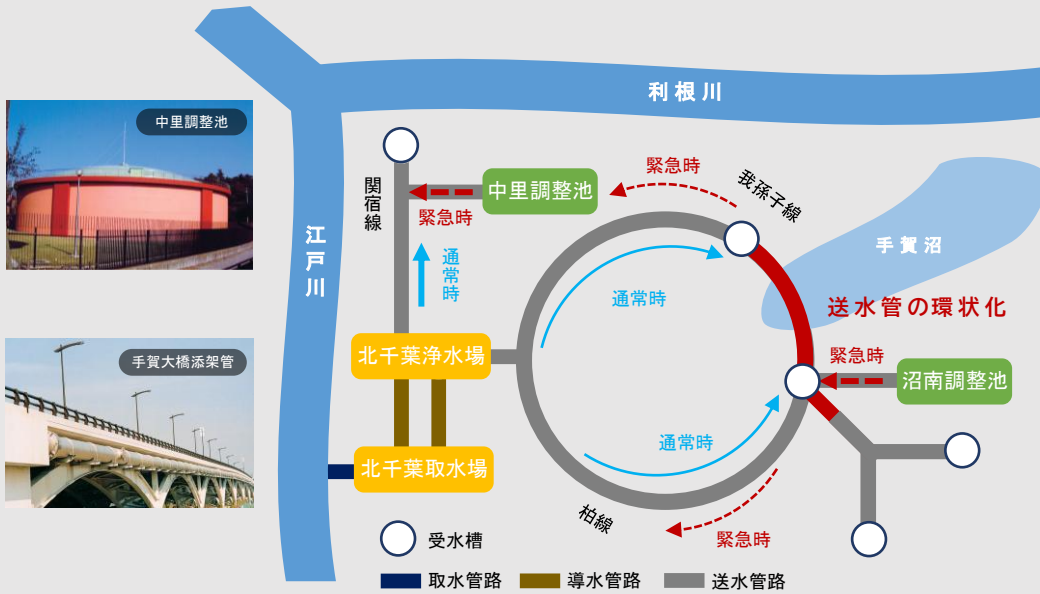
こうしたなか、企業団も設立から50年以上が経過したところですが、企業団においては、水道施設の老朽化や職員採用の困難化などの課題を抱えており、水道事業全体では、自然災害の激甚化・頻発化などへの対応や断水に対する住民意識の変化など、環境は大きく変化しているところです。こうした状況においても、長年培ってきた経験と技術を備えた水道のエキスパート集団として、これからも地域のくらしを支え続ける必要があります。その実現には、刻一刻と変化する環境に柔軟かつ迅速に対応しつつ、「人材(ヒト)、施設(モノ)、財源(カネ)、ノウハウ(情報)」という経営資源の中長期的かつ有機的な連携により、持続的な水道用水供給事業の基盤を強化していく必要があるため、新たな基本理念を掲げることとしました。



バックアップ機能強化への取組

送水管路ループ化事業

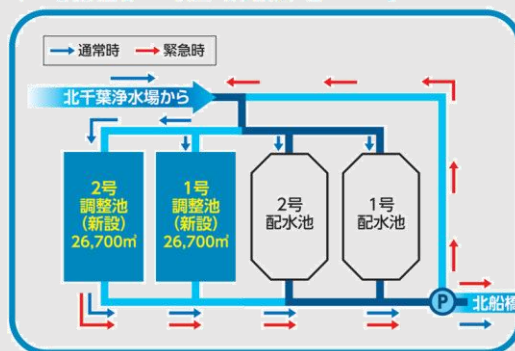
送水管柏線及び我孫子線が環状化されたことで、緊急時には逆方向からの送水を行うことが可能となりました。また、関宿線については、地理的に他系統との連絡が困難なことから、送水管路途中の中里中継ポンプ場内に調整池を設置することで、管路に支障が生じて送水が可能となりました。



沼南調整池設置事業

通常時は配水池として併用し、緊急時には構成団体へのバックアップ送水用として運用することで、調整池を起点として、送水管習志野・八千代線はもとより、逆送により柏線及び我孫子線に対して、一定時間の送水が可能となりました。

沼南給水場 沼南調整池(新設) 53,400m³





Topic 全国の水道用水供給事業者と企業団との比較

水道事業の規模を表す企業団の計画一日最大給水量（令和6年度現在）は、全国に87団体ある水道用水供給事業者（コンセッション方式を除く）の中で7番目になります。また、計画一日最大給水量50万 m^3 超の大規模な水道用水供給事業者のうち、企業団のみが取水施設及び浄水施設が単一施設となっています。

水道用水供給事業者	計画一日最大給水量 (m^3 /日)	施設数		R5 現在給水人口 (人)
		取水	浄水	
埼玉県	2,112,000	5	5	7,270,439
神奈川県内広域水道企業団	1,924,400	2	4	8,530,280
愛知県	1,740,000	5	11	5,049,010
大阪広域水道企業団	1,540,000	3	3	6,000,357
阪神水道企業団	824,100	2	2	2,751,666
沖縄県	589,000	34	12	1,338,636
北千葉広域水道企業団	525,000	1	1	4,370,212 (約165万人 [※])

※()書きの給水人口は、構成団体の受水割合に基づき独自に算出した



Topic イメージキャラクター「メデちゃん」

企業団では、地域住民の皆さまに水道用水供給事業者である企業団を身近に感じていただくため、イメージキャラクターを活用した積極的な広報活動を展開していくこととし、平成16年にイメージキャラクター「メデちゃん」が誕生しました。

このデザインは、小学生や一般市民に企業団の事業内容や水道に対する意識の向上を促すものとして、応募作品20作品から大きな瞳が特徴のメダカのイラストが選ばれました。名称については、企業団HPにて一般応募し、構成団体の小学生から応募のあった「メデちゃん」に決定しました。

